

介護職員初任者研修シラバス

事業者名：社会福祉法人 敬和会

研修事業の名称：介護職員初任者研修（通学）

科目番号・科目名（時間数）	1 職務の理解（6時間）	
指導目標 （ねらい）	①研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の人生を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形でどのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持ち、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。	
指導の視点	①研修過程全体の構成と各研修科目相互の関連性の全体像を予めイメージできるようにし、学習内容を体系的に整理して知識を公立・効果的に学習できるような素地の形成を促す。 ②視聴覚教材を使用し、介護職が働く現場や仕事の内容をできる限り具体的に理解させる。	
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①多様なサービスの理解	3時間	<p>〈講義内容〉</p> <p>○介護という職業について、介護保険制度下の居宅サービスおよび施設サービスの内容を中心に、その他の介護保険外サービス（福祉・医療サービス等）について概説する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護の概念 ・介護保険サービス（施設・居宅・地域密着型サービス） ・介護保険外サービス <p>〈演習内容〉</p> <p>○講義を踏まえ、施設の紹介映像（DVD教材）を利用して介護サービスの内容および介護サービス提供現場を理解する。</p>
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	3時間	<p>〈講義内容〉</p> <p>○居宅及び施設における介護職の具体的な仕事内容、サービスを提供する現場の状況、ケアプランから始まる介護サービス業務の流れを解説する。チームアプローチ・他職種との連携地域の社会資源との連携について概説する。</p> <p>〈演習内容〉</p> <p>○グループに分かれ受講生の介護体験を披露し合い、互いの「介護観」に対する理解を深める。</p> <p>○実際の介護体験を中心に、これから学んでいく研修課程全体の各研修科目内容がどのように関連して必要になるかをグループごとに図を作成してまとめる。</p>
合計時間数	6時間	

使用する機器・備品等	視聴覚教材 (DVD)
------------	-------------

科目番号・科目名 (時間数)	2 介護における尊厳の保持・自立支援 (9 時間)	
指導目標 (ねらい)	①介護職が、利用者の尊厳ある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解する。	
指導の視点	<p>①具体的な事例を複数示し、利用者及びその家族の要望にそのまま応えることと、自立支援・介護予防という考え方に基づいたケアを行うことの違い、自立という概念に対する気づきを促す。</p> <p>②具体的な事例を複数示し、利用者の残存機能を効果的に活用しながら自立支援や重度化の防止・遅延化に資するケアへの理解を促す。</p> <p>③利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由について考えさせ、尊厳という概念に対する気づきを促す。</p> <p>④虐待を受けている高齢者への対応方法についての指導を行い、高齢者虐待に対する理解を促す。</p>	
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①人権と尊厳を支える介護	5 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人権と尊厳の保持 <ul style="list-style-type: none"> ・個人としての尊重 ・アドボカシー ・エンパワメントの視点 ・「役割」の実感 ・尊厳のある暮らし ・利用者のプライバシー保護 ○ICF <ul style="list-style-type: none"> ・介護分野における ICF ○QOL <ul style="list-style-type: none"> ・QOL の考え方 ・生活の質 ○ノーマライゼーション <ul style="list-style-type: none"> ・ノーマライゼーションの考え方 ○虐待防止、身体拘束禁止 <ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束禁止 ・高齢者虐待防止法 ・高齢者の養護者支援 ○個人の権利を守る制度の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護法 ・成年後見制度 ・日常生活自立支援事業 <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○虐待、身体拘束、プライバシー侵害、利用者の尊厳を

		損なう介護職員の言動などの具体例を示し、その背景にある状況や介護者の心理についてグループディスカッションを行う
②自立に向けた介護	4 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自立支援 <ul style="list-style-type: none"> ・自立・自律支援 ・残存能力の活用 ・動機と欲求 ・意欲を高める支援 ・個別性/個別ケア ・重度化防止 ・サービス提供の基本視点 ・具体的な事例を複数示し、利用者の残存機能を活用しながら自立支援や重度化の防止、遅延に資するケアを促す ○介護予防 <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防の考え方 ・一次予防事業である高齢者が参加しやすい教室開催への取り組み等の理解 ・二次予防事業の6つの視点である <ol style="list-style-type: none"> ①運動器の機能の向上 ②栄養改善 ③口腔機能の向上 ④閉じこもり予防・支援 ⑤認知機能低下予防・支援 ⑥うつ予防・支援 等の理解 <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自立支援・介護予防の考えに基づいたケアを事例を使用してグループワークで学ぶ
合計時間数	9 時間	

使用する機器・備品等	
------------	--

科目番号・科目名 (時間数)	3 介護の基本 (6 時間)	
指導目標 (ねらい)	<p>①介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策を理解する。</p> <p>②要介護者の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を取られることができる。</p>	
指導の視点	<p>①可能な限り具体例を示すなどの工夫を行い、介護職に求められる専門性に対する理解を促す。</p> <p>②介護におけるリスクに気づき、緊急対応の重要性を理解するとともに、場合によってはそれに一人で対応しようとせずに、サービス提供責任者や医療機関と連携することが重要であると実感できるように促す。</p>	
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	1.5 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護環境の特徴と理解 <ul style="list-style-type: none"> ・訪問介護と施設介護サービスの違い ・地域包括ケアの方向性 ○介護の専門性 <ul style="list-style-type: none"> ・重度化防止・遅延化の視点 ・利用者主体の支援体制 ・自立した生活を支えるための援助 ・根拠ある介護 ・チームケアの重要性 ・事業所内のチーム ・多職種から成るチーム ○介護に関わる職種 <ul style="list-style-type: none"> ・異なる専門性を持つ他職種の理解 ・介護支援専門員 ・サービス提供責任者 ・看護師等とチームとなり、利用者を支える意味 ・お互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供 ・チームケアにおける役割分担 <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事例紹介の中で、看護師、栄養士、理学療法士等が果たす役割を受講生が列挙した後に、介護職に求められる専門性の特質について討議する
②介護職の職業倫理	1.5 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○職業倫理 <ul style="list-style-type: none"> ・専門職の倫理の意義 ・介護の倫理 (介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等)

		<ul style="list-style-type: none"> ・介護職としての社会的責任 ・プライバシーの保護・尊重 <p>〈演習内容〉</p> <p>○職業倫理に関わる講師の体験例を紹介した後に、受講生が各々の自分の体験による倫理観の変化について省察して文章化する。</p>
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	1.5 時間	<p>〈講義内容〉</p> <p>○介護における安全の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事故に結びつく要因を探り対応する技術 ・リスクとハザード <p>○事故防止、安全対策。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リスクマネジメント ・分析手法と視点 ・事故に至った経緯の報告（家族への報告、市町村への報告等） ・情報の共有 <p>○感染対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染の原因と経路（感染源の排除、感染経路の遮断） ・「感染」に対する正しい知識 <p>〈演習内容〉</p> <p>○ヒヤリハットレポートの書き方</p>
④介護職の安全	1.5 時間	<p>〈講義内容〉</p> <p>○介護職の心身の健康管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職の健康管理が介護の質に影響 ・ストレスマネジメント ・腰痛の予防に関する知識 ・手洗い、うがいの励行 ・手洗いの基本 ・感染症対策 <p>〈演習内容〉</p> <p>○講師の実演に基づき、手洗い、うがいの方法を全員でシミュレーションする。</p>
合計時間数	6 時間	

修了時の評価のポイント	<p>①介護を目指す基本的なものは何かを概説でき、家族による介護と専門職による介護の違い、介護の専門性について列挙できる。</p> <p>②介護職として共通の基本的な役割とサービスごとの特性、医療、看護との連携の必要性について列挙できる。</p> <p>③介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族などに関わる際の留意点について、ポイントを列挙できる。</p> <p>④生活支援の場で出会う典型的な事故や感染、介護における主要</p>
-------------	---

	<p>なリスクを列挙できる。</p> <p>⑤介護職に起こりやすい健康障害や受けやすいストレス、又それらに対する健康管理、ストレスマネジメントのあり方、留意点を列挙できる。</p>
--	--

使用する機器・備品等	手洗い石鹸・ペーパータオル・手指消毒液
------------	---------------------

科目番号・科目名 (時間数)	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (9 時間)	
指導目標 (ねらい)	①介護保険制度及び障害者総合支援法の目的、サービス利用の流れを理解する。 ②各専門職の役割、責務についてその概要のポイントを理解する。	
指導の視点	①介護保険制度や障害者総合支援制度を担う一員として、介護保険制度の理念に対する理解を徹底させる。 ②利用者の生活を中心に考えるという視点を共有し、その生活を支援するための介護保険制度、障害者総合支援制度、その他制度のサービスの位置付けや代表的サービスの理解を促す。	
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護保険制度	3 時間	〈講義内容〉 ○介護保険制度創設の背景および目的、動向 ・ケアマネジメント ・予防重視型システムへの転換 ・地域包括支援センターの設置 ・地域包括ケアシステムの推進 ○仕組みの基本的理解 ・保険制度としての基本的仕組み ・介護給付と種類 ・予防給付 ・要介護認定の手順 ○制度を支える財源、組織・団体の機能と役割 ・財政負担 ・指定介護サービス事業者の指定 〈演習内容〉 ○制度に関わる基本的な用語について、練習問題を解いて知識の確認をする。
②医療との連携とリハビリテーション (1)医行為と介護・医療と介護の連携	2 時間	〈講義内容〉 ○医行為と介護 ○訪問看護 ○施設における看護と介護の役割・連携 〈演習内容〉 ○医行為であるか問われる具体例を示し、ディスカッションを通してその判断基準を示す。
(2)リハビリテーション医療に関する部分	2 時間	〈講義内容〉 ○リハビリテーションの理念 ○残存機能の回復 ○身体機能のリハビリテーション ○生活行動のリハビリテーション ○精神活動のリハビリテーション 〈演習内容〉

		○見学を通し、リハビリテーションがどのようなものかを知る。また、見聞した内容についてグループ討議を行う。
③障害福祉制度およびその他制度	2時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○障害福祉制度の理念 <ul style="list-style-type: none"> ・障害の概念 ・ICF（国際生活機能分類） ○障害福祉制度の仕組みの基礎的理解 <ul style="list-style-type: none"> ・介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで ○個人の権利を守る制度の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護法 ・成年後見人制度 ・日常生活自立支援事業
合計時間数	9時間	

修了時の評価のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ①生活全体の支援の中で介護保険制度の位置づけを理解し、各サービスや地域支援の役割について列挙できる。 ②介護保険制度や障害者総合支援制度の理念、介護保険制度の財源構成と保険料負担の大枠について列挙できる。 ③ケアマネジメントの意義について概説でき、代表的なサービスの種類と内容、利用の流れについて列挙できる。 ④高齢障害者の生活を支えるための基本的な考え方を理解し、代表的な障害者福祉サービス、権利擁護や成年後見の制度の目的、内容について列挙できる。 ⑤医行為の考え方、一定の要件の下に介護福祉士等が行う医療行為などについて
-------------	--

使用する機器・備品等	
------------	--

科目番号・科目名 (時間数)	5 介護におけるコミュニケーション技術 (6 時間)	
指導目標 (ねらい)	①高齢者や障害者とのコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取るべきことが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限取るべき行動を理解している。	
指導の視点	①利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由について考えさせ、相手の心理機能に合わせた配慮が必要であることへの気づきを促す。 ②チームケアにおける専門職間でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解するとともに、記録等を作成する介護職一人ひとりの理解が必要であることへの気づきを促す。	
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護におけるコミュニケーション	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <p>○介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮 ・傾聴 ・共感の応答 <p>○コミュニケーション技法、道具を用いた言語的コミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語的コミュニケーションの特徴 ・非言語コミュニケーションの特徴 <p>○利用者・家族とのコミュニケーションの実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の思いを把握 ・意欲低下の要因を考える ・利用者の感情に共感する ・家族の心理的理解 ・家族へのいたわりと励まし ・信頼関係の形成 ・自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする ・アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い <p>○利用者の状況、状態に応じたコミュニケーション技術の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視力、聴力の障害に応じたコミュニケーションの技術 ・失語症に応じたコミュニケーション技術 ・構音障害に応じたコミュニケーション技術 ・認知症に応じたコミュニケーション技術 <p>〈演習内容〉</p> <p>○コミュニケーション技法の基本について、実演やロールプレイを通して学習する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の抱く感情や気持ちの理解を図る

<p>②介護におけるチームのコミュニケーション</p>	<p>3 時間</p>	<p>〈講義内容〉</p> <p>○記録における情報の共有化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録 ・介護に関する記録の種類 ・個別援助計画書（訪問・通所・入所・福祉用具貸与等） ・ヒヤリハット報告書 ・5W1H <p>○報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告の留意点 ・連絡の留意点 ・相談の留意点 <p>○コミュニケーションを促す環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議 ・情報共有の場 ・役割の認識の場（利用者と頻回に接触する介護者に求められる観察眼） ・ケアカンファレンスの重要性 <p>〈演習内容〉</p> <p>○実際に介護記録を記入する</p> <p>○介護記録における情報の共有化</p> <p>○報告・連絡・相談</p>
<p>合計時間数</p>	<p>6 時間</p>	

<p>修了時の評価のポイント</p>	<p>①共感、受容、傾聴的態度、気づきなど基本的なコミュニケーション上のポイントについて列挙できる。</p> <p>②家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性を理解し、介護職として持つべき視点を列挙できる。</p> <p>③言語・視覚・聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点を列挙できる。</p> <p>④記録の機能と重要性に気づき、主要なポイントを列挙できる。</p>
--------------------	--

<p>使用する機器・備品等</p>	
-------------------	--

科目番号・科目名 (時間数)	6 老化の理解 (6 時間)	
指導目標 (ねらい)	①加齢、老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解させる。	
指導の視点	①高齢者に多い心身の変化、疾病の症状等について具体例を挙げ、その対応における留意点を説明し、介護において生理的側面の知識を身に付けることの必要性への気づきを促す。	
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①老化に伴うこころとからだの変化と日常	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 <ul style="list-style-type: none"> ・防衛反応 (反射) の変化 ・喪失体験 ○老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 <ul style="list-style-type: none"> ・身体的機能の変化と日常生活への影響 ・咀嚼機能の低下 ・筋、骨、関節の変化 ・体温維持機能の変化 ・精神的機能の変化と日常生活への影響 <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○加齢に伴って起こる様々な変化と症状を受講生全員で洗い出す ○身体機能が低下している状態を体験し、機能の変化を理解する
②高齢者と健康	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高齢者の疾病と生活上の留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・骨折 ・筋力の低下と動き ・姿勢の変化 ・関節痛 ○高齢者の多い病気とその日常生活上の留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・循環器障害 (脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患) ・循環器障害の危険因子と対策 ・老年期うつ病症状 (強い不安感、焦燥感を背景に、「訴え」の多さが前面に出る、うつ病性仮性認知症) ・誤嚥性肺炎 ・症状の小さな変化に気付く視点 ・高齢者は感染症にかかりやすい <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体温計測・電子血圧計を用いた血圧測定・脈拍の計測
合計時間数	6 時間	

修了時の評価のポイント	①加齢・老化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴・社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴について列挙できる。 ②高齢者に多い疾病の種類とその症状や特徴及び治療・生活上の留意点及び高齢者の疾病による症状や訴えについて列挙できる。
使用する機器・備品等	体温計・電子血圧計

科目番号・科目名 (時間数)	7 認知症の理解 (6 時間)	
指導目標 (ねらい)	①介護において認知症を理解することへの必要性に気づき、認知症の利用者を介護するときの判断の基準となる原則を理解する。	
指導の視点	①認知症の利用者の心理・行動の実際を示す等により、認知症の利用者の心理・行動を実感できるように工夫し、介護において認知症を理解することの必要性への気づきを促す。 ②複数の具体的なケースを示し、認知症の利用者の介護における原則についての理解を促す。	
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①認知症を取り巻く状況	1 時間	〈講義内容〉 ○認知症ケアの理念 ・パーソンセンタードケア ・認知症ケアの視点（できることに着目する）
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2 時間	〈講義内容〉 ○認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理 ・認知症の定義 ・もの忘れとの違い ・せん妄の症状 ・健康管理（脱水・便秘・低栄養・低運動の防止・口腔ケア） ・治療 ・薬物療法 ・認知症に使用される薬
③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2 時間	〈講義内容〉 ○認知症の人の生活障害、心理、行動の特徴 ・認知症の中核症状 ・認知症の行動、心理症状（BPSD） ・不適切なケア ・生活環境で改善 ○認知症利用者への対応 ・本人の気持ちを推察する ・プライドを傷つけない ・相手の世界にあわせる ・失敗しないような状況をつくる ・すべての援助行為がコミュニケーションであると考え ること

		<ul style="list-style-type: none"> ・身体を通したコミュニケーション ・相手の様子、表情、視線、姿勢などから気持ちを洞察する ・認知症の進行に合わせたケア <p>〈演習内容〉</p> <p>○事例をもとに認知症への対応方法をグループで検討する</p>
④家族への支援	1 時間	<p>〈講義内容〉</p> <p>○認知症の受容過程での援助</p> <p>○介護負担の軽減（レスパイトケア）</p>
合計時間数	6 時間	

修了時の評価のポイント	<p>①認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について概説できる。</p> <p>②健康な高齢者の「物忘れ」と認知症による記憶障害の違いについて列挙できる。</p> <p>③認知症の中核症状と行動・心理症状（BPSD）等の基本的特性及びそれに影響する要因を列挙できる。</p> <p>④認知症の心理・行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションの取り方及び介護の原則について列挙できる。又同様に若年性認知症の特性についても列挙できる。</p> <p>⑤認知症の利用者の健康管理の重要性と留意点、廃用症候群予防について概説できる。</p> <p>⑥認知症の利用者の生活環境の意義やそのあり方について、主要なキーワードを列挙できる。</p> <p>⑦認知症の利用者とのコミュニケーション（言語・非言語）の原則、ポイントについて理解でき、具体的ななかかわり方を概説できる。</p> <p>⑧家族の気持ちや家族が受けやすいストレスについて列挙できる。</p>
-------------	--

使用する機器・備品等	
------------	--

科目番号・科目名 (時間数)	8 障害の理解 (3 時間)	
指導目標 (ねらい)	①障害の概念と ICF、障害福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解する。	
指導の視点	①介護における障害の概念と ICF を理解しておくことの必要性の理解を促す。 ②高齢者の介護との違いを念頭に置きながら、それぞれの障害の特性と介護上の留意点に対する理解を促す。	
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①障害の基礎的理解	1 時間	〈講義内容〉 ○障害の概念と ICF ・ ICF の分類と医学的分類 ・ ICF の考え方 ○障害者福祉の基本理念 ・ ノーマライゼーションの概念
②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎知識	1 時間	〈講義内容〉 ○身体障害 ・ 視覚障害 ・ 聴覚、平衡障害 ・ 音声、言語、咀嚼障害 ・ 肢体不自由 ・ 内部障害 ○知的障害 ・ 知的障害 ○精神障害（高次脳機能障害、発達障害を含む） ・ 統合失調症、気分（感情障害）、依存症などの精神疾患 ・ 高次脳機能障害 ・ 広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害などの発達障害 ○その他の心身の機能障害 〈演習内容〉 ○実際の症例について ICF を用いて情報を整理し、活動・ 参加への具体的なアプローチ方法を立案する
③家族の心理、かかわり支援の理解	1 時間	〈講義内容〉 ○家族への支援 ・ 障害の理解 ・ 障害の受容支援

		<p>・介護負担の軽減</p> <p>〈演習内容〉</p> <p>○事例を基に家族との関わりについてグループごとで討議を行う</p>
合計時間数	3 時間	

修了時の評価のポイント	<p>①障害の概念と ICF について概説でき、各障害の内容・特徴及び障害に応じた社会支援の考え方について列挙できる。</p> <p>②障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方について列挙できる。</p>
-------------	---

使用する機器・備品等	
------------	--

科目番号・科目名 (時間数)		9 こころとからだのしくみと生活支援技術(75 時間)	
指導目標 (ねらい)		<p>①介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。</p> <p>②尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅地域等で生活を支えるその介護技術や知識を習得する。</p>	
指導の視点		<p>①介護実践に必要なこころとからだのしくみの基礎的な知識を介護の流れを示しながら、視聴覚機材や模型を使って理解させ、具体的な体の各部の名称や機能等が列挙できるように促す。</p> <p>②サービスの提供例の紹介等を活用し、利用者にとっての生活の充足を提供し且つ不満足を感じさせない技術が必要となることへの理解を促す。</p> <p>③例えば、「食事の介護技術」は「食事という生活の支援」と捉え、その生活を支える技術の根拠を身近にできるように促す。さらに、その利用者が満足する食事を提供したいと思う意欲を引き出す。他の生活場面でも同様とする。</p> <p>④尊厳のある死について考えることができるように、身近な素材からの気づきを促す。</p>	
基本知識の学習	項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
	①介護の基本的な考え方	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○理論に基づく介護 (ICF の視点に基づく生活支援、我流介護の排除) ○法的根拠に基づく介護 <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○グループに分かれて、生活障害という視点から、ICF に基づいて、心身機能と活動・参加との関連を図に示した上で介護の役割を挙げる
	②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習と記憶の基礎知識 ○感情と意欲の基礎知識 ○自己概念と生きがい ○老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因 ○こころの持ち方が行動に与える影響 ○からだの状態がこころに与える影響 <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○個人が生きることと社会参加との関係から高齢者の心身の健康についてグループワークで討議する
③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ○骨、関節、筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの 	

			<p>活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 ○自律神経と内部器官に関する基礎知識 ○こころとからだを一体的に捉える ○利用者の様子の普段との違いに気づく視点 <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○バイタルサインチェックの測り方を演習する <ul style="list-style-type: none"> ・体温 ・脈拍 ・呼吸 ・血圧
生活支援技術の講義・演習	④生活と家事	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援 <ul style="list-style-type: none"> ・生活歴 ・自立支援 ・予防的な対応 ・主体性。能動性を引き出す ・多様な生活習慣 ・価値観 <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○調理援助に関して、模擬事例を用い、グループ演習を通して調理援助の計画を作成し、報告する。配慮すべき点や原則を踏まえ考察し、理解を図る。
	⑤快適な住環境整備と介護	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者、障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭内に多い事故 ・バリアフリー ・住宅改修 ・福祉用具貸与 <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○DVD を活用し福祉用具、社会資源の活用、安全な住居環境の理解を深める ○実際に福祉用具を使用し、体感してみる

	<p>⑥整容に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>3 時間</p>	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○整容に関する基礎知識、整容の支援技術 <ul style="list-style-type: none"> ・身体状況に合わせた衣服の選択、着脱 ・身じたく ・整容行動 ・洗面の意義・効果 <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○DVD を活用し、整容支援技術（洗顔、目、鼻腔、耳、爪の清潔法、髭剃り）の理解を深める ○片麻痺、ベッド上で全介助等の状態を想定し、実際に着衣着脱の援助を行う ○洗面、整髪、爪の手入れ ○「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる
<p>生活支援技術の講義・演習</p>	<p>⑦移動・移乗に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>11 時間</p>	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援 <ul style="list-style-type: none"> ・利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法 ・利用者の自然な動きの活用 ・残存能力の活用、自立支援 ・重心、重力の動きの理解 ・ボディメカニクスの基本原理 ・移乗介助の具体的な方法（車いすへの移乗の具体的方法、全面介助でのベッド・車いす間の移乗、全面介助での車いす、洋式トイレ間の移乗） ・移動介助（車いす・歩行器・つえ等） ・褥瘡予防 <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○安楽な体位の工夫 ○体位変換、移動介助（臥位、起居動作、座位、立位） ○車いす⇔ベッド、ベッド⇔ポータブルトイレ、車いす⇔洋式トイレの移乗動作 ○ボディメカニクスの活用と体位変換 ○肢体不自由者、視覚障害者の歩行介助 ○転倒予防体操を体験する ○「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる
	<p>⑧食事に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>6 時間</p>	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○食事に関する基礎知識、食事環境の整備、食事に関連した用具、食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するところからだの要因の理解と

			<p>支援方法、食事と社会参加の留意点と支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食事をする意味 ・ 食事のケアに対する介護者の意識 ・ 低栄養の弊害 ・ 脱水の弊害 ・ 食事と姿勢 ・ 咀嚼、嚥下のメカニズム ・ 空腹感 ・ 満腹感 ・ 好み ・ 食事の環境整備（時間・場所等） ・ 食事に関する福祉用具の活用と介助方法 ・ 口腔ケアの定義 ・ 誤嚥性肺炎の予防 <p>〈演習内容〉</p> <p>○グループ単位で実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 受講生各自に紙コップ、スプーン、手ぬぐい、ハンドタオル、歯ブラシ、食材等をいくつか持参させて、実践的な食事介助の練習を行う ・ 様々な介護食材、トロミ材を用意し、制作、試食する ・ 食事介助の基本方法を講師が模範演技し、反復練習する。特に介護者の立ち位置、利用者の姿勢をポイントとする。 ・ 嚥下のメカニズムを学ぶ <p>○口腔ケアの方法</p> <p>○食事介助（姿勢・摂食体験）</p> <p>○実践練習を通して習熟度確認を行う</p> <p>○「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる</p>
<p>生活支援技術の講義・演習</p>	<p>⑨入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>8 時間</p>	<p>〈講義内容〉</p> <p>○入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 羞恥心や遠慮への配慮 ・ 体調の確認 ・ 全身清拭（身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方） ・ 目、鼻腔、耳、爪の清潔方法 ・ 陰部洗浄（臥床状態での方法） ・ 足浴、手浴、洗髪 <p>〈演習内容〉</p> <p>○グループ単位で実施</p>

			<ul style="list-style-type: none"> ・入浴、清潔保持に必要なさまざまな入浴用具、整容用具を紹介する ・特養の一般浴室を使用して、入浴介助の手順、安全確認、福祉用具の使用方法、利用者への接し方の実践練習を行う ・全身清拭、手浴、足浴、洗髪方法、ケリーパットの作り方、清拭時の体の支え方を講師が模範演技をし、実践練習を行う ・目、鼻腔、耳、爪の手入れの方法を学ぶ ・受講生に洗髪モデルを選任し、実際に洗髪する。 ・ベッド上での陰部洗浄の方法を学ぶ ・羞恥心、尊厳を守る環境整備、声かけ、気遣いの方法を学ぶ ・受講生は繰り返し練習し、練習を通して習熟度を確認する ・「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる
生活支援技術の講義・演習	⑩排泄に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護	6 時間	<p>〈講義内容〉</p> <p>○排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するところからだの要因の理解と支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄とは ・身体面（生理面）での意味 ・心理面での意味 ・社会的な意味 ・プライド、羞恥心 ・プライバシーの確保 ・おむつは最後の手段/おむつ使用の弊害 ・排泄障害が日常生活上に及ぼす影響 ・排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連 ・一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的な方法 ・便秘の予防（水分の摂取量保持、食事内容の工夫/繊維質の食物を多く取り入れる、腹部マッサージ） <p>〈演習内容〉</p> <p>○グループ単位で実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義前に予め紙パンツを全員に配布し、排泄体験を行う ・排泄環境整備の方法 ・排泄用具の紹介 ・おむつやパッドの吸収ポリマーの能力、交換方法等を

			<p>学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベッドからポータブルトイレへの移乗方法を学ぶ ・ポータブルトイレの構造、使用方法を学ぶ ・ベッド上でおむつ交換の方法、差し込み便器、尿器の使用法、陰部の清潔保持、洗浄方法を学ぶ ・男性と女性の違いによる排泄介助のコツを学ぶ ・羞恥心、尊厳を守る環境整備、声かけ、気遣いの方法を学ぶ ・受講生は繰り返し練習し、練習を通して習熟度を確認する ・「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる
生活支援技術の講義・演習	⑪睡眠に関するところとからだのしくみと自立に向けた介護	3時間	<p>〈講義内容〉</p> <p>○睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安眠のための介護の工夫 ・環境の整備（温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室） ・安楽な姿勢 ・褥瘡予防 <p>〈演習内容〉</p> <p>○グループ単位で実施。快適な睡眠環境の作り方、睡眠用具の紹介、活用方法を紹介する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベッドの構造、機能、操作方法を学ぶ。安楽な姿勢・褥瘡予防を実際に行う ・ベッドマット、枕、クッション、ベッド柵の使用法を学ぶ ・ベッドメイキング方法を学ぶ ・受講生は繰り返し練習し、練習を通して習熟度を確認する ・「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる
	⑫死にゆく人に関するところとからだのしくみと終末期介護	3時間	<p>〈講義内容〉</p> <p>○終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終末期ケアとは ・高齢者の死に至る過程（高齢者の自然死（老衰）、癌死） ・臨終が近づいたときの兆候と介護 ・介護従事者の基本的態度 ・多職種間の情報共有の必要性

			<p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○講師が示す事例・体験及び映画を鑑賞して、看取りの意義についてグループで討議する ○受講生各自が「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる
生活支援技術の講義・演習	⑬介護過程の基礎的理解	3 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護過程の目的・意義・展開 ○介護過程とチームアプローチ <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○具体的な事例を提示して介護計画（個別支援計画）を立案、作成する ○「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる
	⑭総合生活支援技術演習	5 時間	<p>〈講義内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を目指す。 <ul style="list-style-type: none"> ・事例の提示→こことからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題 ○2 事例（要支援 2、認知症）を用意し、グループ単位で課題に取り組み、介護計画の立案、実技を通して介護手順の習得と技術習得レベルの確認、介護後の見直しと今後の取り組みに向けた検討を行う <ol style="list-style-type: none"> 1) 要支援者への支援(概要・生活状況・状態像把握・必要な支援とその理由) 2) 要介護者・介護家庭への援助(概要・生活状況・状態像把握・必要な支援とその理由) <p>〈演習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1 事例 2.5 時間程度のサイクルで実施する ○「ふりかえり」を書き、学習内容をまとめる
実習		12 時間	<ul style="list-style-type: none"> ○法人内施設で実習を行う。(1日2名) (1)介護老人福祉施設 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者生活支援施設けいわ荘：3 時間 ・特別養護老人ホームユニテけいわ：3 時間 (2)通所介護事業所 <ul style="list-style-type: none"> ・居宅介護支援センターけいわ荘：3 時間 (3)訪問介護事業所

		・ 居宅介護支援センターけいわ荘 : 3 時間
合計時間数	75 時間	

修了時の評価のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ①主だった状態の高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護者等に応じた在宅・施設等それぞれの場面における高齢者の生活について列挙できる。 ②要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則（方法、留意点、その根拠等）について概説でき、生活の中の介護予防及び介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方や方法を列挙できる。 ③利用者の身体の状態に合わせた介護、環境整備についてポイントを列挙できる。 ④人の記憶の構造や意欲等を支援と結びつけて概説できる。 ⑤人体の構造や機能が列挙でき、なぜ行動が起こるかを概説できる。 ⑥家事援助の機能と基本原則について列挙できる。 ⑦装うことや整容の意義について解説でき、指示や根拠に基づいて部分的な介護を行うことができる。 ⑧体位変換と移動・移乗の意味と関連する用具・機能や様々な車いす、杖などの基本的使用方法を概説できる。体位変換と移動・移乗に関する体のしくみが理解され指示に基づいて介助を行うことができる。 ⑨食事の意味と食事を取り巻く環境の方法が列挙でき、食事に関する体のしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 ⑩入浴や清拭の意味と排泄を取り巻く環境整備や入浴に関連した用具を列挙でき、入浴に関する体のしくみが理解され指示に基づいて介助を行うことができる。 ⑪排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、排泄に関する体のしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 ⑫睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境や関連した用具を列挙でき、睡眠に関する体のしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 ⑬ターミナルケアの考え方、対応の仕方・留意点、本人・家族への説明と了解、介護職の役割や他の職種との連携（ボランティアを含む）について列挙できる。
-------------	--

使用する機器・備品等	車いす・テーブル・足台・防水布・エプロン・自助具・椅子（背もたれや肘掛のあるもの）・クッション・食器（食べ易く工夫されたもの）・ビニール・タオル・ストロー・スプーン・フォーク・はし・吸いのみ・おしぼり・とろみ剤・ポータブルトイレ・取り付け式手すり・便器（和式・和洋折衷型・洋式）・尿器（男性用・女性用採尿器）・各種おむつカバー・パッド・ゴムマット・バスタオル・汚れたオムツを入れる容器・着脱しやすい衣類・トイレットペーパー・パジャマ・寝巻き（ゆかた式）・ベッド・椅子・簡易浴槽・シャワーチェア・手すり・洗面器・バスボード・浴槽石鹸・綿棒・ドライヤー・洗髪パッド・バケツ・陰部洗浄容器・ドライシャンプー・ゴム手袋・プラスチック手袋・やかん・ビニールシート・洗髪器・ガーゼ・歯ブラシ・コップ・舌ブラシ・各種杖・白杖・アイマスク・三角巾・包帯・消毒ガーゼ・ダンボール
------------	--

科目番号・科目名 (時間数)	10 振り返り (4時間)	
指導目標 (ねらい)	①研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習意欲の認識を図る。	
指導の視点	<p>①在宅・施設いずれの場合であっても、「利用者の生活の拠点に共に居る」という意識をもって、その状態における模擬演習(身嗜み・言葉遣い・対応の態度などの礼節を含む)を行い、業務における基本的態度の視点を持って介護を行えるよう理解を促す。</p> <p>②研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを演習等で受講生自身に表で言語化させた上で、利用者の生活を支援する根拠に基づく介護の要点について講義等により再確認を促す。</p> <p>③修了後も継続的に学習することを前提に、介護職が身に付けるべき知識や技術の体系を再掲するなどして、受講者一人ひとりが今後、何を継続的に学習すべきか理解できるよう促す。</p> <p>④最新知識の付与と次のステップ(職場環境への早期適応等)へ向けての課題を受講生が認識できるよう促す。</p> <p>⑤介護職の仕事内容や働く現場、事務所等における研修の実例等について、具体的なイメージを持たせるような工夫、活用が望ましい。</p>	
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①振り返り	2時間	<p>〈講義内容〉</p> <p>○研修を通して学んだことや理解したことを再確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修を通して学んだこと ・今後継続して学ぶこと ・根拠に基づく介護についての要点(利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等) <p>〈演習内容〉</p> <p>○グループディスカッションを通して、今後のキャリア形成について見通しを持つ</p>
②就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2時間	<p>〈講義内容〉</p> <p>○事業所における事例を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続的に学ぶこと ・研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における実例(Off-JT、OJT)を紹介 <p>〈演習内容〉</p> <p>○研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所における事例紹介</p>

合計時間数	4 時間	
全カリキュラム合計時間	130 時間	